

入選

小さな親切から考えたこと

東京都 昭和小学校 4年 飯塚 荘太

ぼくは最近、電車やバスなどで席をゆずる「小さな親切」をするようにしています。

小さい子がいる集団、ケガ人、高齢者、妊婦さんなどに、優先席でなくても、タイミングがあるときに席をかわります。

やってみて思ったのですが、この中で「高齢者」と「妊婦さん」は、判断がむずかしいときがあります。自分が高齢者だろうと思っても、本人がそう思っていなければ「まだ若いから大丈夫だよ」と言われるからです。

たしかに立っていたい人もいるかもしれないし、全員にかわればいいものでもないのだなと思いました。また、妊婦さんのように見えても、ちょっとふくよかなだけの人もあるから判断がむずかしいです。そのような場合には、声をかけては失礼になってしまいます。親切をするのも、観さつ力が必要だなと思います。

最近になって、便利なものがあることを見つけました。妊婦さん全員がつけているのかわからないのですが、カバンに「マタニティーチェーンホルダー」がついていることがあります。あのチェーンホルダーをつけていてくれると、まよわずに席をゆずれて、非常に便利だと思います。きっと、ほかの場所でも周囲の人たちに気にかけてもらえると思うので、発明した人はすごいなと思いました。しかも、デザインがかわいしいし、見やすくてセンスがいいと思います。

ぼくは、人にやさしくしようと思ひ、できることは何だろうと考えていますが、あまり多くはできていません。また、席をゆずることに関しても、いろいろ考えながらやらなくてはいけないので、けっこうむずかしいです。

やることは小さいことなのに、考えることはふくざつです。逆に言えば、ぼくがまわりのみんなからしてもらっている多くの親切のうらには、それ以上の考えや思いがあり、その一部が見えているだけなのだろうと思いました。自分も人に感しゃしながら生活をしていこうと考えました。

家族で行動するときも、学校で行動するときも、人はまわりの人々とおたがいに協力をしながら生きているのだと思います。たまに、人が必要としているものや行動を、必要としているタイミングに、いやみなく“さっさっ”と行っていく人を見かけます。

その人たちは、いろいろな人のことに思いをめぐらせ、観さつ力もあり、さらに実行力もある人なのだと思います。ぼくももう10才になるので、大人になるあと10年の間に、そのような人たちに少しでも近づけるように日々がんばっていきたくと思いました。